

	<p>2015年 9月15日 第110号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
---	---

近づいて見るとおもしろい

日暮台公園の魅力

日暮台公園は、エコポリスセンターに近い前野町5丁目にある公園で、出井川（今は緑道になっている）に向かう斜面樹林地にあります。出井川の対岸に中台の山（斜面林）が見えます。板橋区は武蔵野台地のはずれにあり、崖や斜面が多いところですが、緩やかな斜面は宅地開発されて、条件のよくない崖線が公園となっています。公園でも利用しにくい斜面は樹林地のままなので、他の公園と比べて自然が感じられます。

私たちは、2011年7月から毎月第1土曜日に数人で1時間ほど公園の様子や、林縁の動植物を観察してきました。同じ場所でも季節により移り変わり、時間の経過や管理作業によって変化していきます。思いもかけない野草に出会った喜びもあります。いつも誰かが何かを発見し、共有しています。自宅から近いので、ちょっとついでに立ち寄って見たりして愛着も深めています。



日暮台公園の平坦部分と斜面樹林地（奥）

す。調査をする前の年（2010年）に南部公園事務所にお願ひし、林内の下刈りを止めていただきました。樹林地の地面がつるつるだったので、下草が生えてきて困るようなら私たちが下刈りします、と申し出たのです。しかし下草はいつこう生えてきません。斜面下（林縁）も翌年から下刈りを止めていただきましたが、こちらは日当たりのよいところは草木が茂り、めまぐるしく変化しました。

下刈りしないで自然のままにするとどうなる

斜面下の林縁の下刈りを止めていただいた次の年、日当たりのよい場所では野草がたくさん咲きました。木の種が芽生え、お日様を求めて競争しながら、すくすく育ちました。そして翌年はすっかり地面が見えなくなり、草丈の低いツボスミレ・キランソウ、端にあったホタルブクロは消えてしまいました。里山管理をしないとだめだ、と言う声が聞こえてきそうですね。

キツネノカミソリは下刈りを止めて1、2年は増えてきれいに咲きました。キツネノカミソリはヒガンバナの仲間で、夏に花が咲きますが、このとき葉はなく花茎だけ出ます。そしてヒガンバナ同様他の植物が枯れた冬に葉が出ます。落ち葉の掃除をしなくなった林縁には大量の落ち葉が積み、この下から葉が出てくるのか心配でした。葉は、他の場所より遅く3月に出てきて6月には他の草に隠れてしまいます。緑の葉が光合成して栄養をつくる期間は短いですが、夏になると生い茂った草むらの中から花が顔を出します。「一面に咲く」華やかさはありませんが心配無用でした。

林縁は立ち入り禁止なので道はありません。夏になるとクズなどが伸びてきます。私たちが最小限の草刈をしていましたが、すぐに藪になってしまいます。公園課が、際だけ、程ほどの草刈

をされ、ちょっとほっとしています。写真左は、2014年7月の様子（私たちが刈った後）。藪状になって、草丈の低い野草は負けてしまいましたが、茂みの中から茎を伸ばして、花をつける野草もあります。虫も多く、肉食のカマキリがうろうろしています。



ありふれた野草と友達になる

観察結果を記録し、わからないものは調べたりしますが、わからなくてもそのうちわかるだろうという、ゆるーい調査です。

ハナミズキやソメイヨシノ、ツツジなどが植栽され花壇がある平坦地と違って、昔は雑木林だったところがあまり手を加えずに公園になったようで、いろいろな野草が咲きます。

草刈しなくなった林縁にクサイチゴの白い花がたくさん咲きますが、翌月の観察会では果実は

終わっています。そこで、実がなる頃に観察会をして、それぞれ2, 3粒ずつ味わいました。

また、ずっと名前のわからない植物がありました。カンゾウだと言った人がいましたが、「違う」とこだわった石橋さんは一株を持ち帰りベランダで育てたら花が咲き、シラスゲだと証明されました。林縁は日当たりが悪く花が咲かなかったのです。石橋さんはまじめにシラスゲの株を元に戻しました。疑問が解消し、物知りになり、愉快でした。



写真右上は嫌われ者のドクダミ。刈られることが多いですが、一面に花が咲くときれいです。

樹林地の毎木調査をした

昨春秋、樹林地のどこにどんな木が生えているか植生調査をしました。緑と公園課にお願いして植栽現況図と植栽樹リストをいただき、これをもとに樹林地の中に入って1本1本、種類を確認し、幹周りを測りました。参照できる資料があるので大助かりでした。最初は順調でも中に入って時間がたつと、イヌシデとシロダモが多い樹林地なので、どこを調査しているのかわからなくなり、しろうとには結構くたびれる調査でした。それでも公園課のデータの間違いをいくつか見つけて、ちょっとうれしかったりして！

外から見ると、この樹林地はイヌシデ、コナラ、クヌギ、イヌザクラなどの落葉樹の間に常緑樹のシロダモが混じっています。シロダモが多いのは困ったこととされているようです。が、何がどう困るのか私にはよくわかりません。

高木の常緑樹では、スダジイ(シイの木)の大木(幹周り1.5m)ほか数本があり、林内にもスダジイの若い木があり、タブノキも数本ありました。成増4丁目緑地や赤塚公園で多く見られるシラカシは、ここにはなく、マテバシイやクスノキもわずかです。また成増や赤塚にある「お茶」の木は1本もなく、この場所でお茶は栽培されていなかったようです。東側の平坦地はツツジなどいろいろ植栽されていますが、斜面の樹林地は枝切りや間伐することはあっても、植木を植えたりせず、自然のままになっているようです。

樹林地は下刈りをしなければならないのか

次頁写真は公園の奥の方(斜面南側)の林床の様子です。2000年に昆虫調査をしたときに下草のないのに驚きました。10年後さらに「はげ山化」が進行してもっと驚きました。そして公園の樹林地管理に疑問を持ち、見守っていきたいと思い、毎月調査を始めたのです。樹林地は平坦な公園と同じように草刈をし、落ち葉の清掃をします。草刈は5~6月頃と11月頃、そして1~2月に落ち葉を除去(枝等の処分)します。これでよいのか、です。

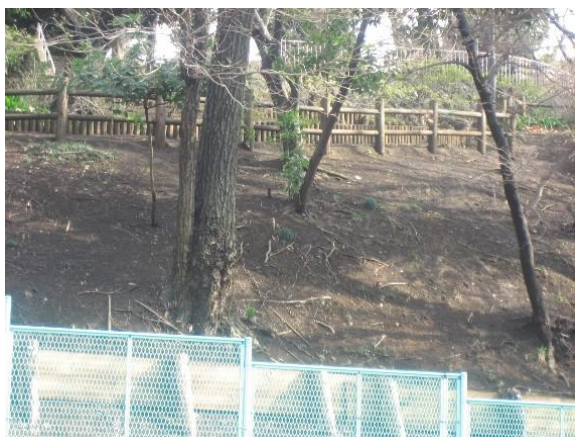


写真上：2000年10月 写真下：2010年8月（ほぼ同じ場所から撮影）
10年後には、地面にササがなくなり、つつるになり、土留め柵が何段もできている。
現在下刈りを中止して5年たつが、「はげ山化」は進行し、土留め柵はさらに増えた。
斜面下の下草も貧弱。ただし、下草は表土があり日当たりがよいところでは回復する。

ここは、斜面林の南のはずれにあり常緑樹はほとんどなく、落葉樹のイヌシデが中心です。下刈りを中止してから5年経ちましたが、あのしつっこいアズマネザサも出てきません。落葉樹だから日当たりが良さそうですが、冬以外は頭上を木の葉が覆い、日が射し込みにくいこと（剪定

しても間伐しても、その空白はすぐに他の枝が伸びて塞いでしまう)、高低差が大きい山陰の陰になってしまうこと、地面がつるつるのため日陰に強い植物も育ちにくいのかもかもしれません。

左下は斜面の北側の写真で、2012年2月、隣の土地が更地になったとき撮りました。下刈りし、落ち葉を清掃した後で、地面がむき出しです。右側は、2014年4月、更地に住宅が建ったため斜面下から撮ったほぼ同じ場所です。下刈りを止めたため木の種が芽生え、藪状になり、ここにヤマユリも咲きます。高低差が小さく日当たりがよいと斜面の裸地も回復します。冬に木を何本か切った直後だったので、タチツボスミレがいっぱい咲いていました。



はげ山をなんとかしたい

北側を除いて、斜面の地面はたいへん貧しい環境です。常緑樹を切っても日当たりはよくなり、土留め柵があっても土は溜まらず、ドングリは発芽しても日当たりが悪いので育ちません。そこで試しに日陰に強いシロダモの実生を斜面南端の土留め柵の上に植えてみました。

また、土作りとドングリを植えてみることにしました。側溝の上に落ちた落ち葉はパサパサして腐食しないので、2年前から雨の後に湿った落ち葉をガラ袋（土嚢袋の大きなもの）に詰めておいたら立派な腐葉土になったので、それを土留め柵の内側に戻し、そしてドングリの苗（今年の春に公園のコナラとスダジイの実を発芽させたもの）を移植してみました。コナラは半分がすぐに枯れました。日陰に強そうなスダジイがどうなるか？それは後日。

子どもや来園者が親しめる ちょっと自然の区域がほしい

急な斜面や園路がつかれない斜面下など人が利用できない場所は、無理になんとかしようとしなくて、野生の動植物に返してあげたい、私たちは、地味で、珍しくもない、人に賞賛されない動植物のことも配慮したい、と考えて活動しています。自然は人が利用するためにだけあるのではありません。

公園は利用者のことしか考えません。だからゾーニングによって人に愛される野草も育つ区域もつくりたい。春にタンポポが咲き（セイヨウタンポポであっても）、子ども達が赤まんま（イヌタデ）の花を摘み、秋の草紅葉を愛でる、キツネノカミソリやニリンソウが咲く・・・

でもガーデニングは考え方や好みがいろいろです。この公園でも、ニリンソウを植え、ニリンソウがよく咲くように他の植物を抜くなどの活動をしている人もいます。公園の自然をどうするか、は、自然を観察するだけよりもややこしいかもしれません。



左の写真は、まばらに木の生えている緩やかな斜面です。周囲に園路があります。子ども達は滑り遊びをしますが、草刈の回数も少ないように思いました。ゴンズイのひこばえがあり、そばにサワフタギが咲いていました。ここに野草の花が咲き、昔の日暮台公園の風景を再現できるかもしれません。

身近な自然を大切にしていきたい方、私たちと一緒に日暮台公園に近づいて観察してみませんか。(坂本郁子)

おすすめ！赤塚で子どもも大人も虫しらべ！

8月22日(土)、4歳の娘と、いたばし水と緑の会主催“バッタ広場の「虫しらべ」観察会”に行ってきました。

バッタ広場は、赤塚ため池公園の近く、赤塚城址にあります。

主催者が用意してくれた虫かごと虫捕りアミをお借りして、「いざ虫さがし！」と、勇む間もなく目の前にバッタや、トンボ、チョウチョ、セミなどなど魅力的な虫たちがどんどん現れてくれました。ここは虫の宝庫でした。

アミで捕まえたときの快感！童心に戻りました！

捕まえてカゴに入れて観察するとそれぞれの虫たちの表情がとっても面白いです。

虫さがしに興奮してきた私たちは、バッタ広場の周辺の林のほうにも散策に。そこには雑木林と落ち葉と倒木。倒木を持ち上げその下をのぞいてみると、なんと、小ぶりながらもクワガタのオスを発見！会の方に聞いてみると“クワガタ”とのこと。いやー、東京23区の板橋区でクワガタを見つけることができるとは思いませんでした。赤塚の自然の未知なる可能性を強く感じました。

参加者それぞれが捕まえた虫は参加者全員で観察したあと、広場とその周辺にちゃんと逃がしてあげました。

自然と虫たちと戯れることがいかに面白いかが、今回の観察会で再発見しました。そして、こういった戯れが赤塚でもできるということは私たちにとって新発見でした！呼びかけてくださった会のみなさんに感謝です。

赤塚での虫さがし、絶対お勧めです。とくに子どもたちやその親たちに勧めたい！自然と触れ合うことの面白さ、ぜひ味わってほしいです！

ところで実は私は、いたばし水と緑の会の会員でもあります。一板橋区民として、そして一会員として、この素晴らしい板橋の自然を活かし、より多くの子どもたちが触れたり遊んだりでき

るような環境を作りたいと考えています。自分たちが住む地域に自然豊かな水と緑があふれ、そこで子どもも大人も一緒になって自由に遊ぶことができればどんなに素晴らしいでしょう。今回の「虫しらべ」観察会で、そんな素晴らしい場を板橋でも作ることは可能だと改めて思いました。

板橋の子どもたち、お父さん、お母さん、そんな板橋の環境づくり、ぜひ一緒にやってみませんか？（しがき伸也（赤塚新町在住））



バッタ広場の虫調べ

今回は赤塚公園のイベントとして実施し、親子の参加も数組あって賑やかでした。一般の方も参加するので7月と8月に部分的に草刈りをしましたが、猛暑でできなかった。調査の方法は、めいめいが虫を捕まえて、後でみんなで観察します。捕まえられないものについては、他の人も観察できるように赤いリボンで印をつけました。リボンは毛虫が並んだクヌギの葉と、ナガコガネグモにつけました。クモの網にはツマグロスケバがかかっていた（写真左）。

オオカマキリ2、オオカマキリ幼、オンブバッタ、キリギリス幼、ショウリョウバッタ4（目視多数）、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、アカボシゴマダラ、カブトムシ♀、コクワガタ、アオドウガネ、コアオハナムグリ、ハラナガツチバチ、オオフタオビドロバチ、ナガコガネグモ、ウズラカメムシ、ホソハリカメムシ、ツマグロスケバ、ツマキシヤチホコ幼

観察と活動の記録

7月18日（土）トンボ池整備1ヶ月後の観察

日照を確保するための樹木の伐採（実生のムクノキ、ミズキ、梅など）

オオシオカラトンボおつながりで飛来し、離れてメスが産卵。ザリガニの巣穴が多数、ザリガニは見当たらず。大仏下ミニトンボ池、熊手で、ザリガニ大1と稚ザリガニ多数捕獲。試験的に粗朶4つを沈めてみる。

7月25日（土）猛暑。バッタ広場草繁茂。クズが広場にも侵入して汗だくで刈り取り。

コムスジ、マルカメムシ、マメコガネ、アオドウガネ、（ヒメ）ジュウジナガカメムシ、

トンボ池にシオカラ。ミニトンボ池 子ども達がザリガニを捕りに来ている模様。ソダの下のザリガニ捕獲（2-3cmに成長していたザリガニ20匹）水の中に小さな甲虫、貝が多数。

8月8日（土）トンボ池 どれも水深10cm。誰かが放流した魚もメダカもザリガニも見当たらず。イチモンジセセリ、キマダラセセリ、カマキリ幼

8月15日（土）バッタ広場 クズ等繁茂。刈るのに追われて観察会の下見まで手が回らない。

8月19日（水）トンボ池、練馬で連続90ミリ降雨あった翌日。右側の池の水位上昇。様子はあまり変わらず。草繁茂

8月22日（土）バッタ広場観察会 バッタ広場の生き物しらべ（赤塚公園イベント）

9月12日（土）トンボ池 台風の大雨後水位上昇（30cm以上）。水草保護と景観配慮のためクズ等抜き取り、ザリガニトラップ設置

活動のお知らせ

運営委員会：9月26日（土）、10月24日（土） 12：30～13：30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

連絡先；坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：11月21日（土） 12：30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

活動予定いろいろ

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、大仏下ミニトンボ池、バッタ広場）の観察と環境整備
いずれもトンボ池前集合。

様子を見ながら手入れ内容を検討します。作業は1時間程度として、引き続き周辺や他のビオトープの観察をします。具体的な内容は未定です。関心のある方は事務局にご連絡下さい。

9月26日（土）10：00～11：00 11：00～12：00 観察会

10月17日（土）10：00～11：00 11：00～12：00 観察会

10月24日（土）10：00～11：00 11：00～12：00 観察会

11月21日（土）10：00～11：00 11：00～12：00 観察会

集合はいずれも赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）

2 日暮台公園樹林地の観察プラスα

（樹林地内の推移と林縁植物の観察）

10月3日（土）、11月7日（土）いずれも10：00～11：30

日暮台公園前集合

●ビオトープ管理のボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの管理作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。活動の内容は、身近な動植物を観察しながら、大きくなった木を切ったり、セイタカアワダチソウなどの外来植物や生育旺盛なササを刈り取ったり等々です。一緒にやりませんか。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。